

News

No.133
2014/10/01

移転十周年



■サレジオ高専News

学び舎、町田移転10周年を迎えて
2014年度「機械の日・機械週間」デザインコンテスト受賞報告
異なる分野を融合させて能力を高める学生と教員たち
化学コミュニケーション賞2013における審査員特別賞受賞
山下研究室（エネルギー変換研究室）の業績・活動等についての紹介
TV-CMの今昔から見る「変わるものと変わらないもの」
編集部からのお知らせ

■育英学院同窓会報

サレジオ高専にて同窓会執行役員会SHCD2014幹事会開催
今年もキャリアデーに多数の卒業生講師が来校
第47期卒業式・謝恩会 同窓会執行役員が出席
（育英時代の執行役員は女子卒業生の華やかさにびっくり）
サレジオ同窓会日本連合2014会合（目黒）東京、横浜、大阪、宮崎の各校同窓会役員参集

■父母会だより

父母会本部と各パーティの紹介
父母定期総会と歓迎会について
プロジェクト活動/おやしの会
恒例！野尻湖/バス旅行

SALESIO

サレジオ高専

サレジオ工業高等専門学校

194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8

Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

Loving Kindness
Human Technology
Living Truth

発行人…校長:小島 知博
編集長…教員:山館 順
編集…職員:星野 正登

2003/09/23

2004/07/23

2005/03/09

一過去・現 サレジオ高専はこれ

- 学び舎、町田移転10周年を迎えて -

本校が杉並から多摩境の地に移転して10年が経過しました。移転を機に学校名を「育英高専」から「サレジオ高専」に改称してあらたな出発としました。

この10年間、本校の周辺は住居が次々と建ち、新設の中学校、小学校もでき、目覚ましい発展をとげ、本校もこの町の風景に溶け込んでいます。

また、さまざまな人々の支援をいただいて多摩境にサレジオ高専があることが徐々に知られるようになりました。そして地域に開かれた学校になるために努力を続けてきた結果、今年度、「サレジオ工業高等専門学校地域交流協議会」が商栄会や商工会議所の方々とともに発足いたしました。少しずつ多摩境に本校は根づいています。

移転当初の校長であった田中次生神父は『大学と学生』（独立行政法人 日本学生新機構 編 平成18年23号）に「『響きの丘』から」というタイトルで本校移転について寄稿しています。「響きの丘」は本校正面のバス停の名称です。「響き」ということばから本校を取り囲む緑豊かな環境にある風の音、木々の触れ合う音、鳥や虫たちの動く音など自然の豊かさを連想させてくれると述べています。

また教育現場での「響き」が大切だと言います。教職員の心の響きを伝えること、そのためには教職員が伝えるべき、響かせるものを持っていること、また学生たちが教職員の心の響きを捉えたいと思うような心の通いがあること、最後に学生たちの返してくる響きに教職員が静かに耳傾ける努力をすることの3点をあげています。

本校の教育法である「アシステンツァ」（寄り添う教育）は学生と教職員の心の通いがあることが根底にあります。これからも「アシステンツァ」を通して学生との信頼関係を築いていく教育を実行して行きたいと思えます。

10年間、学生、保護者、学校関係者ほか多くの人々のご理解とご協力があって教育活動を続けることができています。今後も多くの人々、とりわけ地域の方々との協力、連携を意識してさらなる発展を目指して邁進したいと思えますので、よろしくお願いいたします。

学校長 小島 知博



在・未来 からも走り続けます

2005年	4月	町田多摩境に移転し、校名を「サレジオ高専」としてキャンパスオープン。デザイン工学、電気工学、電子工学、情報工学の4学科編成となる。
	5月	学生寮を開設、サイテック多摩境寮、調布女子寮「友愛の家」落成式。IUS(サレジオ大学機構工学部連合)東京会議開催。
	8月	初めての4年海外研修旅行 2005～2006(韓国) 2007～2009(台湾)、2010～現在(シンガポール)・現地学校と学校交流実施。
2006年	4月	多摩美大、創価大、東京工大と本校専攻科間で単位互換協定を締結。
	7月	教育研究基盤支援事業として募金活動を開始(2010年まで)。
2007年	11月	F・ヘンドリックス元育英高専校長、瑞宝中綬章を叙勲。
	5月	本校が町田市指定避難地域に指定。
	9月	フィリピン・ドンボスコ大学マンガレイオン工大と交流協定締結相互訪問開始。
2008年	11月	20回NHKロボコンにおいてロボコン大賞を受賞
	4月	電子工学科を「機械電子工学科」に名称変更。従来の電子工学科のカリキュラムを電子工学系と機械工学系の知識と技術を身に付けた複合的視野を持つ技術者を育成する内容に再検討して、エレクトロニクス分野に求められている社会的ニーズに応える教育課程に発展させた。それとともに、教育内容が高い複合性を有していることを一般に分かり易くするために、電子工学科を機械電子工学科に名称変更した。
2009年	3月	独立行政法人大学評価・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」の基準を満たしていると認定される。
	4月	デザイン工学科を「デザイン学科」に名称変更。デザイナーという職業もまた珍しくデザイン教育を行う教育機関も有名美術大学など数えるほどのころ、学科名称を「工業デザイン学科」としてスタートした。工業デザインだけでなく、より幅広い分野のデザイン領域の教育を目指して1997年に「デザイン工学科」と改め、さらに工学系デザインだけではなく、芸術系デザインにも含む分野とすべく2008年には「デザイン学科」と改名しました。
2010年	11月	育英学院創立75周年記念式典。祝賀会および卒業生の集いを開催、75周年記念誌を刊行。
2011年	2月	創立者ドン・ボスコの聖遺物が来日、本校を訪問し記念式開催。
	3月	3月11日 東日本大地震発生(本校も震度5弱)で帰宅困難者発生。「危機管理体制の確立」
2012年	10月	故ヘンドリックス元校長追悼式典・偲ぶ会を開催。高専機構主催「高専創立50周年記念式典・祝賀会」開催(学術総合センタ)。
2013年	2月	自己点検評価本部の指揮下「外部評価」を実施。
	4月	高専昇格「1963(S38)年育英高校から育英高専に」から50周年。
2014年	4月	基礎教育センター開設。適切な補習体制を構築し、基礎学力の向上を図ることを目的に設立された。プレ学生を対象とした入学後教育Pの業務を引き継ぐ。将来的には、入学前教育や高学年の進学補講も取り込む。
	9月	9月 サレジオ高専主催「イタリア教職員研修旅行」実施。
	11月	11月 町田移転10周年記念グッズを配布。アンバーサリー品として、「ロゴ入りタオル」を制作・配布。JABEE受審。
2015年	10月	機関別認証評価受信予定

■アンバーサリー品「ロゴ入りタオル」

2014 - 10th anniversary MACHIDA CAMPUS

2014 - 10th anniversary MACHIDA CAMPUS

2014 - 10th anniversary MACHIDA CAMPUS



デザイン学科 大掛さん・中村さん・大本さんが
日本機械学会 2014年度「機械の日・機械週間」デザインコンテストにおいて優秀な成績を収めました

日本機械学会 2014年度「機械の日・機械週間」デザインコンテスト
優秀賞受賞



サレジオ高等 デザイン学科
大掛 千佳世
OKAYE Chikayo



- 受賞コメント -

「このアイデアを考えたいきっかけは今までに無かったものを創りたいかったというのが大きいです。見た人が、『面白い。』『あぁ、凄いな。』と言ってくれるような車を創りたいと思ってデザインしました。

機能についてのアイデアは中学の時、理科の先生がこのような話をするのが好きで、その時にいろいろな事を覚えしました。

一番苦労した点は、今までに無かったものを考えるという事は、元がないため思いついたことをアイデアとして考えてゆく点ですが、表現する事、相手に伝える事、そのために色合いをどうするか等の今勉強していることが役に立ったと思います。

まだ1年生ですが在学中の5年間を通して何かを見つけられたいなと考えています。」

日本機械学会 2014年度「機械の日・機械週間」デザインコンテスト
奨励賞受賞



サレジオ高等 デザイン学科
中村 賢都
NAKAMURA Kento



- 受賞コメント -

「このアイデアはソーラーカープロジェクトでお世話になっている電気工学科の斉藤先生と一緒に話し合っって生まれたものです。

『自分がロボットになれたらいいな』という思いがあり、ウェアラブルなモノを創ろうと考え、パワーアシストスーツをデザインする事にしました。

今回苦労した点は実際に商品化した場合、『ここがおいしいよね。』といった点を考え、カタチになるように工夫したところです。

2年生の時に学んだイラストレーターの授業が、自分の頭の中のイメージを具体化する際に役に立ったと思います。

今後もこういったコンペなどに積極的に参加し、賞も頂けたらいいなと考えています。」

日本機械学会 2014年度「機械の日・機械週間」デザインコンテスト
奨励賞受賞



サレジオ高等 デザイン学科
大本 健太
OMOTO Kenta



- 受賞コメント -

「完全にハンズフリーな、できる限り便利な機械というのを考えました。五感に頭に集中しているので、出来るだけ首の上で手を使わずに使うことを想定し、『耳にかける』という事を考えてデザインしました。

出来る限りの機能を付けるとなると、サイズ感が大きくなるのですが、それをいかに大きくならず、体に負担をかけないサイズ感に収めるにはどうしたらいいか考えるのに苦労しました。

私は高专デザインコンペティションにも参加しているのですが、その時の新しいものを頭の中で考える能力や、アプリケーションを使う技術が役に立ったと思います。

次は前述したデザインコンペティションで新しいモノを創って、入賞を目指して頑張ります。」



今回、サレジオ高等の学生に賞をいただけることを、教職員も大いに喜んでるところです。社団法人日本機械学会および関係者の皆様に深く感謝をいたします。さて、賞をいただいた学生について述べたいと思います。優秀賞の大掛さんは、中学生の時から数々のデザインコンペティションでの受賞歴があります。現在はまだ1年生ですので、授業ではベーシックなことをコツコツ学んでいるところですが、今回のコンテストに関しては、持ち前の自由な発想を生かした作品づくりをすすめてもらいました。その結果、夢のある提案になったこと、及び生き生きとした表現が評価につながったのではないかと考えております。奨励賞の中村さんは、デザイン学科の所属ですが、ソーラーカープロジェクトで電気工学科斉藤先生の指導を受けています。デザインだけでなく、電気という別の切り口からの視点が入っていることで、新鮮な作品に仕上がりました。これにはデザイン学科教員も大いに刺激を受けた次第です。同じく奨励賞の大本さんは、現在のテクノロジーを見越して、リアリティのある提案を行ってくれました。中村さんと大本さんは3年生ですので、夢がありながらも、地に定がついた提案になった点を評価いただけたのではないのでしょうか。このような外部のデザインコンペティションに参加することは、学生たちにとって大きな刺激になります。また賞をいただけることで、今後のモチベーションにもつながっていきます。学生の皆さんには、挑戦を続けて、実力を磨いていって欲しいと願っております。

デザイン学科 准教授 坂元 愛史 (写真右)

- ・高専ロボコン
- ・高専プロコン
- ・高専デザコン
- ・ソーラーカー
- ・ソーラーブレーン
- ・かわさきロボット
- ・中庭鐵道
- ・ロボカップ
- ・エコラン



2013年度 プロジェクト参加メンバー

異なる分野を融合させて能力を高める学生と教員たち

03ページで紹介した中村賢都さんは、デザイン学科の学生であると同時に「ソーラーカープロジェクト」に参加する学生でもあります。彼はこのプロジェクトで得た知識や、そこで指導を行う電気工学科の斉藤先生との学科を超えたコミュニケーションからアイデアを得て、異なる分野の能力（デザインとエンジニアリング）を融合させる事で、今回の受賞に結び付いたとの事です。

多くの卒業生がそうであるように、本校の学生たちは社会に旅立った後、組織の中で、異なる能力を持つ多様な人材と共に、1つの事（例えば製品開発等）に取り組む事になると考えます。その時、彼が実際に体験しながら学んだこの「異なる分野を融合させる」という能力は、必ず彼のデザイナーとしての人生において大きな力になるのではないのでしょうか。

本校で実施される様々なプロジェクト活動はそうした能力を体験的に身につけさせる教育プログラムであると同時に、生涯の友人や恩師との関係を深め合う、重要な取り組みであると考えます。

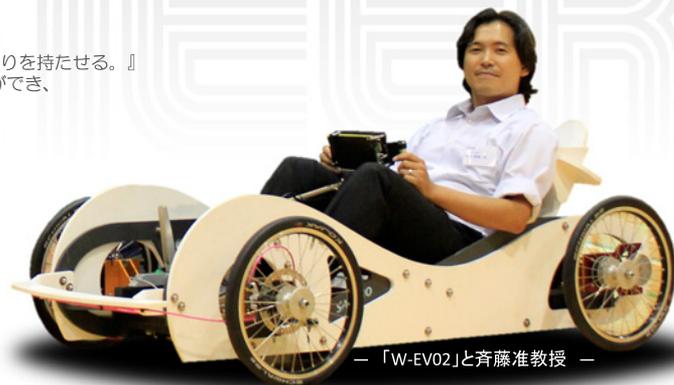
文責 学校広報室長 星野 正登

「まずは中村君の受賞、おめでとうございます。
中村君は1年生からソーラーカープロジェクトに参加しており、デザインだけでなく機能性とユーザーインターフェイスを考慮した部品や製品を形にしていけるためにFRPの造形などに日々挑戦しています。」

今回の作品は「機械と電気と人の融合」に着目してアイデアを練りました。その過程で、『形だけではなく機能を持たせる。』『機能を誇張しつつ全体のシルエットはまとまりを持たせる。』という観点でブラッシュアップしました。中村君はこのアイデアを的確に表現することができ、それが今回の高評価につながったものと考えます。

今後も学生たちには想像力や発想力を発揮して、
どんどん学校外の世界に挑戦していってくれることを期待しています。」

※ 右の写真の「W-EVO2」も中村君が描いたアイデアスケッチをベースデザインとして設計・製作しました。



「W-EVO2」と斉藤准教授

電気工学科 准教授 斉藤 純

一般教育（理系）講師 長尾 明美 博士（農学）が一般社団法人 日本化学連合の化学コミュニケーション賞2013において審査員特別賞（個人）を受賞いたしました



※ 上記画像は一般社団法人 日本化学連合公式Webサイトより引用させて頂いたスクリーンショットです ※

■ 一般社団法人 日本化学連合様の目標について

「日本化学連合は、現存する多数の化学系学協会が積極的に協力・連携して、化学及び化学技術の新しいビジョンを構築し、また化学者コミュニティの発言力増強を図ることを目標とします（一般社団法人 日本化学連合 -Japan Union of Chemical Science and Technology- 公式Webサイト：<http://www.jucst.org/top/>より引用）

■ 化学コミュニケーション賞について

日本化学連合では設立の趣旨である「化学関係団体が賛同して開催する事業」を強化発展させる為、わが国において化学・科学技術に関係する啓発活動、情報発信などにより、化学教育、化学産業の育成、発展に貢献した個人並びに団体を表彰する制度を平成23年度に創設した。平成25年度も昨年、一昨年に引き続き「化学コミュニケーション賞2013」を主催した。（一般社団法人 日本化学連合平成25年度事業報告：<http://jucst084.sakura.ne.jp/wpcontent/themes/nihonkagakurengo/zygyouhoukoku25.pdf>より引用）

長尾博士はこの他にも我々の生活において身近な食材である「バナナ」を用いて、様々な教育的活動を通じた地域貢献活動を実施しております。一例をあげると2013年11月には「食はサイエンス！」の情報発信を目的として、本校の化学実験室をピストロ風にアレンジし、ピストロ・サレジオという90分のプログラムで（1）バナナのDNA粗抽出（2）香りの不思議（3）ワインの魔法という3つのテーマを通して地域の様々な年齢層の方々に体験的な教育の場を提供しました。

また2014年3月には神奈川県相模原市の大学交流センター「ユニコムプラザさがみはら」の調理室において「おもしろ科学実験」という原子・生命・食品・国際問題を学ぶ学際的な120分のプログラムを実施しました。こちらは「親子で学ぶ実験」でコミュニケーションを深める事を目的としたもので、前述したピストロ・サレジオと同様に参加者の方々から高い評価を頂きました。

こういった地域貢献とは、高等教育機関での研究により高められた智慧を教育という手法を通して、より直接的に社会へ還元するという「高等教育機関に求められる3大機能（教育・研究・社会貢献）」の発露であると考えます。（下画像はプログラムの様子等）



文責 学校広報室長 星野 正登



今回は化学リテラシーの育成を目的に、化学に親んでもらうための簡単な化学実験を通常教室で導入して、それを世代を問わずに広めようと考え、誰が聞いてもわかる事や、実験を通じたコミュニケーションも重視しました。

内容としては、バナナと食塩水と洗剤とエタノールでDNAの粗抽出するのですが、そのために文系・理系問わず、簡単な「家にあるものでできる」を心がけ、ペットボトルのふたやコンタクトの容器といったものでできるプログラムを作りました。

最後に学生の皆様に。
世の中に無駄になるものは何もありません。
学生の皆さんもこの学校で学ぶことは何一つ無駄になりませんので是非、色々な勉強や活動に積極的に取り組んでみてください。

一般教育 理系 講師
長尾 明美 博士（農学）

山下研究室（エネルギー変換研究室）の業績・活動等についての紹介

— 小型風車・洋上風力発電・空中風力発電・波力発電・潮力発電等の研究を通し、積極的な学会発表・地域貢献イベントへの参加を実施しています —



2014年度 研究室在籍学生の研究内容

- ・垂直軸型マグナス水力発電装置の駆動方法に関する検討
- ・マグナス波力発電装置のブレード制御の改善
- ・電力補償装置を有する風力・太陽光ハイブリッド発電システムの開発
- ・可変ピッチ機構を有するマイクロ風車用ガイドベーンの研究
- ・垂直軸型マグナス水力発電装置のブレード制御に関する検討
- ・揚水式エネルギー貯蔵設備を有する空中風力タービン装置の開発

※ 詳細は山下研究室HP（ <http://www.salesio-sp.ac.jp/department/lab/yamasita/index.html> ）
「サレジオ 山下研究室」で検索するか、上記アドレスもしくは右側のQRコードで検索してご覧ください。



近年、温室効果ガスの大量放出による地球温暖化や汚染物質による環境破壊が問題視されています。また、これらの原因の1つである化石燃料に対しては枯渇問題が常に懸念されています。

これらの問題については様々な取組みが行われており、クリーンで資源の枯渇する事のない再生可能エネルギーへの期待が高まる一方です。

本研究室ではこのような再生可能エネルギーをテーマとし、これまでに利用されていないエネルギーの模索や既存技術の改良等について研究を行っています。

電気工学科 准教授 山下 健一郎



TV-CMの今昔から見る「変わるものと変わらないもの」 — 1992年頃と2014年のTV-CMを見て —



昭和シェル石油株式会社 広報部様のご協力で約22年前（1992年頃）のTV-CMについての当時の資料をご提供頂きました。
このCMはマイレッジ・マラソンでのレースの様をドラマチックに放映し、当時の学生達のモチベーションに強い影響を与えました。



この画像は昭和シェル石油広報部様のご協力で、当時のCMの、アーカイブされていた社内報等をご提供いただいたものです
この場をお借りして心より感謝申し上げます



株式会社RICOH様のご協力で、2014年にCSR系のコンテンツとしてTV-CMに参加させて頂きました。
このCMはLED灯の導入実験を通して実現した案件ですが、ネットバイラルでも在校生・卒業生の反応を頂きました。



ご覧のようにTVもブラウン管から4Kへ、蛍光灯もLED灯へ、そしてその他のテクノロジーも20年間の間に目覚ましい進化を遂げました。
しかしこの仕事をさせて頂いて解った事が1つあります。時代も校舎も世代も変わってゆきますが、何かに真剣に取り組む学生の表情や、
それを支える教職員の姿は当時と変わっていないのではないのでしょうか。私も育英高専（現サレジオ高専）の卒業生ですが、
こういった人々の姿を見るたびこの学校で学び、そして働く事が出来て良かったと感じます。
学生たちのひたむきに情熱をそそぐ姿は、それを見た者の心にも火を付けます。
学生たちはどうかこれからも自分たちのやっっていることに自信をもって積極的に取り組み
あっという間に過ぎ去る学生生活を楽しんで欲しいと心より願っております。

文責 学校広報室長 星野 正登

お知らせとお願い



本誌をご覧の皆様

ご覧いただき誠にありがとうございます。編集長の山館、編集・リニューアルデザイン担当の星野です。
今号の07ページでRICOH様のCMについて少し触れましたが、実はこのCMにも卒業生のお力をお借りしております。

上記写真はCMの撮影風景なのですが、一番右に立っている方が本校の卒業生の米山様です。
現在はリコー関連会社にてプロデューサーとしてでご活躍との事です。
今後ますますのご活躍を心よりお祈りするとともに、この場をお借りしてCMの件の御礼をのべさせていただきます。
ご協力頂き誠にありがとうございました。

さて、前号（132号）でもお願いいたしましたが、人の数だけ素晴らしい活躍が本校には存在するにも関わらず
我々は皆様のご活躍を全て知っているわけではありません。

そこで本誌をご覧の皆様にお願ひがあります。

皆様ご自身のご活躍や、皆様のご学友や先輩・後輩関係から得た最近のご様子など編集部にご提供頂けませんでしょうか？
またはお興味のある教育・研究・社会貢献活動等についての特集のご要望でも結構です。
そしてもし可能であれば、学生たちや教職員達の活動に励ましのお言葉や様々なご支援を頂ければ幸いです。

皆様からのご連絡を心よりお待ちしております。

※ 情報提供・ご支援に関するご質問などは【 学校広報 星野 hoshino@salesio-sp.ac.jp か、070-2196-5135 】までご連絡ください ※

育英学院同窓会報

発行人: 育英学院同窓会 会長 林 紹澄 / 事務局: 町田市小山ヶ丘4-6-8 サレジオ高専内



— お知らせ —

育英祭初日11.1に卒業生の集い(SHCD2014)を開催します

サレジオ高専にて 同窓会執行役員会SHCD2014幹事会開催 2014.5.17(キャリアデー当日)

さる5月17日(土)高専行事キャリアデーの当日午後には標題の執行役員会、卒業生の集い(SHCD2014)の幹事会が開催された。当日午前には恒例のキャリアデーで、各学科から依頼された卒業生講師24名が来校、学科毎に4年生(H28.3卒49期生)を対象として就活準備の講座が開講された。詳しくはキャリアセンターの報告を参照して欲しい。同窓会からは講師に対して若干の謝礼(お車代)をお渡しした。

午後からはまず執行役員会を開き、当日の議題等を整理した。その後、SHCD2014に招待される卒期の評議員、幹事の皆さんが参集され、会長挨拶、出席者自己紹介の後、育英祭初日に開催されるSHCD2014の内容について検討した。その結果以下のような案文で、今回の招待卒期である2,3,4,5,41,42,47期生に8月上旬招待状を発送することになった。対象者は住所把握されている818名に及ぶ。

卒業生の集いへの招待状は2011年育英祭からその年の新卒44期生を招待、翌年は45期生に加えて、卒業後5年の40期生、また昨年は高専創設時の1期生を加えて招待した。今年は新卒の47期生に加えて卒5年後の41, 42期生、育英高専時代の2期生から5期生を招待期とした。これは毎年1期づつとすると39期まで39年かかることになるのでおよそ5期単位にサレジオ高専に迎えることとした。また恒例のBINGO商品はmicroSDを予定している。

今後の予定としては以下の通りである

- ・8月上旬 SHCD2014招待期生に招待状発送
- ・8月下旬 理事・SHCD幹事会招集状発送
- ・9月末 SHCD2014招待状出欠仮メチ
- ・10月4日 理事会・幹事会併催(SHCD2014、DB200 案件)
- ・11月1日 卒業生の集い(SHCD2014)

当日は同窓会執行役員4名、招待期評議員幹事12名が参集し、クラスメンバーへの告知、連絡方法などを打ち合わせた。

今年もキャリアデーに多数の 卒業生講師が来校 2014. 5. 17

お忙しい中、後輩のためにご来校頂いた皆様に同窓会からも深く感謝します。(敬称略、順不同)

S44AD16	斎藤拓馬	(株)ランドマック
S46AD24	古川優衣	(株)フジモデル
S46AD01	明石香澄	(株)廣濟堂
S46AD26	丸山のぞみ	(株)廣濟堂
S46AD30	山崎仁美	東洋製罐グループ
S46AD08	金子慎矢	(株)日創工芸
S46AD27	諸田幸輔	(株)秀光
S46AD15	田畑未紅	(学)東京造形大学
S44AD05	伊藤千紜	(学)武蔵野美術大学
S26CS09	岸川雄一	パナソニック・ハイスマテリアル販売(株)
S31CS26	高津健	NTTコミュニケーションズ(株)
S38CS20	加藤美希	(株)ワイズ
S36CS11	木村龍太	(株)OEC
S46CS55	横溝翔貴	キャンシステム・サポート(株)
S45CS44	森山紗季	キャンシステム・サポート(株)
S43EE34	南条聡	森永乳業(株)
S43EE02	青木裕太	メタウォーター(株)
S14EE40	高田慎保	FFGSテクノサービス(株)
S28EE32	田口美幸	西武電設工業(株)
S36EC14	乙幡裕文	ハイデンハイン(株)
S44EC24	坂東敬広	(学)東京農工大学院
S44EC25	藤原章裕	(学)工学院大学(院)
S46ME15	坂和公介	東海旅客鉄道(株)
S46ME37	横田宗明	東京ガス(株)

**高専2, 3, 4, 5, 41, 42, 47期卒業生
及び特別会員(現元職)へのご招待**

2011年にスタートした町田での卒業生の集いに新卒47期生に加えて高専2,3,4,5期生、41,42期生、現元教職員を招待して以下の集いを開催申し上げます。47期生にあっては社会に出て半年、41,42期の皆さんは卒業5年後、2-5期の育英高専卒の皆さんは数十年を経て、皆様を新キャンパスへお招きします。是非万障お繰り合わせでご出席くださるようお願い申し上げます。

名称 SHCD2014 (Salesio Home Coming Day 2014)
日時 2014年11月1日 午後4時~6時
場所 サレジオ高専町田キャンパス(学生食堂)
住所 町田市小山ヶ丘4-6-8 Tel 042-775-3020
会費 ご招待(同窓会で負担)
主催 育英学院同窓会(SHCD2014幹事会)

準備の都合上、同封のハガキに52円切手を貼って第1次出欠回答を9月30日までに返信願います。最終回答は10月25日メチとします(当日受付有)。11月1-2日の両日は恒例の「育英祭」が開かれています。なお当日来校のすべての正会員(全卒業生)のご出席も頂ければ幸いです。

開催時間を早める意見もあったが、育英祭が午後4時終了なので食堂の営業も考慮して従来通り午後4時-6時とした。今回特に女子卒業生で小さい子供を連れて来られることも散見されるようになったので、1日(土)の午後0~2歳児の「託児サービス」を提案し、了承された。利用者の予測はつかないが場所として第2アリーナ棟の柔道場を確保し、9月現在保育有資格要員の確保を進めている。

**第47期卒業式・謝恩会 同窓会執行役員が出席
育英時代の執行役員は女子卒業生の華やかさにびっくり
2014. 3. 19**

去る3月19日JR橋本北口にある「社のホール」で専攻科12期10名の修了式、本科47期131名の卒業式が挙行された。当日は卒業式に林会長、由良副会長が出席し、始めて参列した由良副会長は女子卒業生の華やかな様子を見て、昔の育英時代との違いに思いをはせていた。その後謝恩会の開かれる京王プラザホテル多摩に移動し、そのロビーで藤谷顧問・河村・近松・由良・川島副会長も参集して臨時の執行役員会を行い、次いで謝恩会に出席した。今年の卒業生は上品で、謝恩会もつつがなく終わった。なお同窓会からは47期卒業対策委員会あてに恒例のお祝いを贈った。またこれに先立ち3月17日には卒業する5年生を対象に事務局から「同窓会年報2014」を配布して同窓会活動について説明した。

**サレジオ同窓会日本連合2014会合(目黒)
東京、横浜、大阪、宮崎の各校同窓会役員参集
育英学院から林会長、近松副会長、由良副会長出席
2014.3.19**

去る8月9日目黒サレジオ教会においてサレジオ同窓会日本連合の会合が開催された。同会はサレジオ同窓会世界連合並びに同アジア・オーストラリア連合の下にあって日本におけるサレジオ会経営の小学校、中学校、高校、高専の同窓会を組織したもので昨2013年に再始動した。これに参集する学校同窓会は以下の通りである。

- ・東京 町田 育英学院同窓会(旧制・中・高・高専)
- ・同 小平 サレジオ小学校・中学校
- ・神奈川 横浜 サレジオ学院同窓会(中・高)
- ・大阪 大阪 星光学院同窓会(中・高)
- ・宮崎 宮崎 日向学院同窓会(中・高)

会合の冒頭、日本連合の創設に尽力された河合神父の納骨式が行われた。当日、以下のプログラムで進行した。

<サレジオ同窓会日本連合2014年第1回会合記録抜粋>

- ・日時: 2014年8月9日(土) 14:53~18:05
- ・場所: カトリック碑文谷教会司祭館
- ・出席者 育英学院同窓会 会長含め3名
日向学院同窓会 欠席(台風11号の影響)
大阪星光学院同窓会 会長含め3名
サレジオ学院同窓会 副会長含め4名
サレジオ小学校・中学校 事務局長1名
サレジオ同窓会日本連合 事務局2名
サレジオ会員(各校校長等6名)



司会進行の立石さん(ドンボスコ社・サレジオ学院卒)により会合が進められた。ロロピアナ新管区長による開会の挨拶ではサレジオ会の組織である「サレジオ家族」の構成員として卒業生は重要な位置を占めている。今後、規約等を整備して日本連合の正式発足を目指したい。本日ここに出席した私はチブリアニ現管区長の後任として、このサレジオ同窓会日本連合を強力に支援したいとの意向を示した。



その後各同窓会から資料をもとに同窓会活動の現況報告を行った。本学院では林同窓会会長が、高専ニュースの130、131、132号に掲載されている同窓会報をもとにキャリアデーでの講師支援など高専への協力姿勢を説明した。

大阪星光は普通科進学校の特徴を活かした異業種交流会、医師の会などを組織している。

横浜サレジオ学院は卒業後25歳と50歳の卒業生を招待して同期会を開催、創立50周年にはグラウンドにLED照明を寄贈している。

小平サレジオ小学校・中学校は卒業生の組織化はまだ行われていないが今後まず集会を企画することから始めたいとの意向を示した。

日向学院は同日九州を襲った台風11号のため飛行機が飛ばずやむなく欠席となった。

本連合事務局からは2015年10月にサレジオ同窓生世界連合(2009年竹内明<S09D>デザイン学科長を派遣)が開催されるのでこれに日本連合代表団を派遣すること、2015年春までに日本連合の正式発足を目指すことが表明された。また女子のサレジオ卒業生の世界的団体としてユニオーネ(UNIONE)が組織され、日本からは星美学園卒業生を中心に活発な活動を行っている。他に2015年はドン・ボスコ生誕200周年で種々の企画が進行中である。

WebSiteは<http://salesians.jp/db200>

ドンボスコ生誕地記念ツアーもサレジオ高専現元教職員グループが既に2014/9/4-9/13で実施(既報)、その他、山之内倫昭(マリオ)神父引率で2014/12/26-2015/1/3の募集が進行中、既に16名の参加予定で10月まで申込可能とのことである。2015/8/20-8/28も計画中である。そのほか記念オリジナルグッズの制作も進行している。

次回会合は大阪星光にて2014年10月11日に開催予定で、規約制定、役員選出、世界大会派遣、DB200イベント企画等が審議される予定である。



高専News編集部では
皆様からの情報やご要望をお待ちしております。

ご自身の近況・ご学友の近況などの情報のご提供や、より詳しく知りたい本校の活動内容などがございましたら
お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

学 校 広 報 室
星野 正登

【 hoshino@salesio-sp.ac.jp 】 or 【 070-2196-5135 】

なお、本校に来校をご予定の方は、公共交通機関をご利用の上、
お気をつけてお越しください。

